

議会改革特別委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告を致します。

1 委員会名及び視察者名

◆議会改革特別委員会

◆視察者

委員長：黒木優一

委員：広瀬功三 楠見千穂子 坂元唱子 成合円美佳

2 視察先・テーマ及び日時

■日時：令和4年8月17日（水） 13:00～14:50

■テーマ：「政策形成等について」

■視察先：小林市議会

■説明者：森田 哲郎 議長（挨拶）

西上 隆 議会運営委員会委員長

鷗野 光博 議会事務局長

西郷 京太 議会事務局主幹

3 視察の内容

（1）政策形成について

① 議会改革の歩み 平成18年3月より

② 令和3年度年間サイクル

③ 令和3年12月議会各常任委員会所管事務調査報告

④ 令和3年度市民厚生常任委員会所管事務調査「子どもの貧困対策について」報告書

⑤ 令和4年度こばカフェ要項について

（2）タブレット端末について

① 議会改革の歩み 平成18年3月より

② 令和3年度観光施設まとめ

4 感想等（別紙添付）

5 添付資料

- (1) 視察の状況等・・・・・・・・別紙1

1 視察の感想

小林市議会は、現在の市域になった平成23年度に議会基本条例制定特別委員会を設置し、議会だよりの改革や議会中継等を行った。平成25年4月には議会基本条例を施行し、市民の意見の聴取のために14会場で市民との意見交換会を行い、課題や問題点を整理して市政や議会活動に反映させている。

報告会で出た意見等にその結果をお知らせするために広報誌の「はなみずき」臨時号を発行している。市民にとって自分の行った意見や質問に対する議会の対応が分かるのでいいことだと思う。

また、意見交換会の参加者が減少してきているため、高校生や区長会との意見交換会を実施している。今年度はこばカフェを計画しており、意見交換会を変化させながら、市民意見の聴取をやっていくことは、大事なことだと思う。

政策形成サイクルは、3月議会で各常任委員会で2項目、年間テーマを設定し、閉会中調査及び先進地視察により12月定例会で報告書を提出するが、最終報告はその後でも良いようだ。サイクルが1年となっており日程的に無理はないのかとも思う。

報告書の市政への反映は各常任委員会で行っているとのことである。

タブレット端末は、議会BCPに基づく災害時等における通信手段として令和元年6月に導入された。現在、紙ベースの議案資料も配布されており、ペーパーレス化には至っていない。新聞スクラップ等の情報収集にも利用されており、多様な使い方はいいと思う。

2 視察の成果及び市政への反映等

政策形成については、本市と同じように模索中とのことであったが、各常任委員会でのテーマを決めて行政に対しての提案をしていくこと及び、検証をしていくことは本市でもやっており、今後も進展させなくてはならない。

政策形成の上で市民意見の聴取は非常に大事なことであり、そのために広報広聴委員会を充実させていたが、本市でも委員の増や聴取の工夫など、更に充実を図るべきだと考える。

経済産業委員会が、観光DMO推進事業の調査の中で、観光施設調査をしていたが、行政側の出した資料ではなく、委員会で現地調査を行っていたことは、非常に良いことだと思う。本市の委員会でも現地調査を拡充していくべきである。

タブレット端末については小林市議会では、使用基準があまり縛られていないように思われた。

本市でのタブレット使用は9月定例会から本格的になるが、今後は事務局との連絡にとどまらず、災害時や議員間の連絡、その他情報収集のツールとして有効に活用するようにしなければならないと強く感じた。

1 視察による結果及び感想について

① 常任委員会所管事務調査の取り組み状況

所管事務調査のテーマは、3月定例会時に2件程度を常任委員会で決定している。このテーマが市民との意見交換会とリンクしていると思われる。決定した所管事務の調査期間は1年。12月定例会において次年度への事業反映を期待し議場で報告している。

●所管事務調査のテーマ決定から報告までの流れは本市議会と変わらないと感じた。ただ、調査期間が1年に満たず市政に対する踏み込んだ意見要望、提言につなげるためにはタイトな調査日程になるのではないだろうか。

また、提言等は議場で報告され、その内容が次年度事業に反映されているか否か各常任委員会が確認することになるが、追跡調査等のシステム及び視点は構築されていないと思われる。

② 広報広聴の取り組み状況

特徴的な取り組みとして、小林市議会だより「はなみずき」の読者モニターを平成25年から設置している。また、意見交換会を実施した内容等を市民へ周知するために臨時号の発行を行っている。

●これまで本市議会の広報広聴委員会は「議会だより」の発行に集中していたが、前期の委員会で規定等を見直し「広聴」の重点化を目指した動きは、小林市議会をはじめ他議会の取り組みを見ても必然的な動きだと感じた。

ただ、小林市議会の「読者モニター」の位置づけは、議会だよりの編集に収斂するものと思われるが、将来的な議会改革を想定して議会活動全体に意見を付す役割を持たせ議会と市民の橋渡しとなるよう「議会モニター」として位置付けてもいいのではないか。

③ タブレットの使用状況

小林市は令和元年にタブレットを導入している。タブレットは、ペーパーレスの推進はもちろん、災害対応として議員の安否確認、被災地域画像の事務局集約などのほか、議員個別の議員活動の支援（資料整理）等に活用されている。また、所属議員への連絡、議員間の協議にも利用されているほか、定期的に研修も実施されている。

●本市議会のタブレットは、ミニマムの状態で導入されている。今後の議員活動の中で、必須の活動を支援するための機能拡充を図っていく必要があると感じた。

2 成果の反映等について

議長諮問事項の「政策形成能力の向上」のためには、「市民の意見」をいろいろな階層で聴取することが重要となる。議員個人は限られた関係の中でしか意見聴取ができないため議会としての政策を形成していくためには、この意見聴取の場をど

のように設定し、どのように意見聴取をするかが基本となる。また聴取結果をデータの羅列とせず類型化し分析しておくことが重要である。

こうした基本情報を議会で共有し議員個人が持つ背景と重ね合わせ、議会の合意として政策形成を進めていく必要がある。この一連の活動の中で議会の「政策形成能力」は高まっていくと考える。まずは「議会の政策形成システム」を構築し、それと併せて「システム」の見直しを進めるためにPDCAサイクルを設定する必要がある。

単に「政策形成能力」を向上させるための具体的な事項を設定するのではなく、「政策形成システムを構築」するために必要な連関する具体的な事項とその優先性を設定しておくことが重要だと考える。

また、本市議会のタブレット活用は緒についたばかりである。議会の中で情報を共有し「政策形成」につなげていくために重要なアイテムであり、その機能を充実させていくと同時に今後の議会活動、議員活動のなかで更に必要な機能が求められる。

タブレットの導入効果を更に高めていくためには、タブレットに付与すべき機能を定期的に議員から聴取し、それらを「議会として必要な機能」、「議員活動として必要な機能」として整理し、今後の機能導入の必然性を明確にしておくことが重要である。更に議員研修を定期的実施するほか、私的利用が発覚した場合の処分のあり方等を明確にしておくことも必要である。

1. 視察の感想

小林市議会側の参加者は、議長・正副議会運営委員長及び議会事務局長、議会事務局の4名出席していただきました。

都城からは議会改革特別委員会から5名、議会事務局から2名出席しました。

先進地視察だけあり、小林市議会は円滑にオンラインを活用されていました。小林市議会 議会改革の歩みをみながら、議会改革特別委員会のやるべき事が理解できるようになりました。

議会基本条例制定特別委員会設置や議会だよりの改革、市民との意見交換会、令和元年タブレット端末導入、市民・区長会・高校生との意見交換会等活発に活動されていると思いました。

2. 視察の成果及び本市議会への反映など

今後取り組むべきこととして、広報広聴委員会の活動です。市民の声を聞く意見交換会を積極的に実施して、その声を伝えていく(回答)ことが大切であると思いました。

また、読みやすい、読みたくなる議会だよりを作成していきたいと思いました。議会だよりは市民への伝達であり、市民から議会への伝達する方法だと思えます。

また、タブレット研修をしっかりと学習し、本会議や委員会が円滑に進行するようにしたいと思います。

1. 視察の感想

小林市議会は3年前より、ペーパーレス化に向けタブレットの導入をしている。議長より冒頭、タブレットを導入して災害時の安否確認がスムーズにできたことが紹介され、またオンラインについては、無料版を使用したとの事で、タブレットの使い道がペーパーレスのみならず多岐に活用できることを感じた。

小林市議会は、市民の意見を聴くこと、広聴に力を入れてきたと事務局長が熱く語られる姿に、感動いたしました。局長が言われるように、市民との意見交換会では、テーマを決め、議会報告会ではなく、高校生や子育て世代も対象にするなど、若い方の意見を聴く事にも力を入れていると感じた。議会日より「はなみずき」の編集に高校生を含む読者モニターを募集しており、開かれた議会だと実感した。

この広聴があつてこそ、政策立案、政策提言につながるのだと感じ、市民との距離が近い議会だと感じた。

そして、年間サイクルによる事務事業評価の実施をしており、常任委員会がそれぞれ、年間テーマを設定し、年間を通じて調査・研究をする。また、毎年執行部側が評価シートを使い議会に報告するなど、年間サイクルがしっかりできていてとても参考になった。

2. 視察の成果及び本市議会への反映等

本市は、小林市議会が行っているように市民からの声を聴くことにもっと力を入れていかなければならないと思う。小林市議会も意見交換会がコロナ禍でできていないとの事でしたが、R2よりカフェ方式に変更し、議員とちよいカフェ名称を「こばカフェ」とするなど親しみやすい工夫をしている。参考にして身近な議会を目指していくことが大事と思う。

また、高校生にも意見を聴くなど若い世代の意見を取り入れているところは、早急に検討しなくてはならないと思う。

政策提言・立案においても、年間サイクルをしっかり決めることで、委員会での共通の年間テーマが明確になり、皆で研究調査していくことで、より強固な政策提言・立案につながると思う。

タブレットについては、本市はこれからスタートなのでよく研究していかななくてはと思いますが、オンライン会議等も早急に検討し、これからはコロナ禍だけではなく、育児や介護等にも柔軟に対応できるようにしていく必要があると思う。

1. 視察の感想

議会改革特別委員会で小林市議会に視察に行く前の小林市議会のイメージは、堅苦しくない「こぼカフェ」という市民と議員の意見交換会を企画したり、高校生とよく意見交換会を開いたりしているというのが印象的で、あとは議員の定員割れが起こりそうだったというのも衝撃的なニュースだと捉えていました。

しかし、実際にお話を聞いてみると感動の連続で、小林市議会からは、議会事務局長の熱量や市民との一体感をとても感じました。何よりも「広聴」に力を入れることが、政策立案への真の近道ということに気付かされたのです。ほかには「事務事業評価」も実施しており、毎年、執行部が評価シートを用いて議会に報告するようになっているので、議員や市民が決めたテーマに沿って、行政の取り組み具合をチェックできる仕組みが整っていました。

政策検討会までは至っていませんが、毎年それに移行できるまでの仕組みが整っていることが都城市議会との大きな違いで、大変参考になりました。

そしてなにより驚いたのが「市議会だより」が我々の作成するものと比べて、天と地の差ほど見やすいということです。意見交換会が開かれた時には臨時号も発行されていました。

「モニター制」を設け、広報広聴委員が推薦する一般市民の他、高校生も毎年1人は必ずモニターとなっていていただき、市民から内容の記載についてアドバイスをもらっているということでした。だから、市民が求めているものが載っているということが手に取るように分かりました。だからこそ、広報広聴委員がかなり多忙なのではないかと思いましたが、その点も疎かにしないようにと、広報広聴委員会には議員の半数となる9人が所属し、2年交代で任期中に必ず1度は携わるようにしているということでした。ただの議会の広報係、編集機能ではなく、本当に「広聴」というものを議会が大切にしているのが分かりました。

また、議員が一方的に発表する「議会報告会」はとっくの昔にやめており、毎回テーマを定めた市民と議員の意見交換会に限って実施されていました。しかも、意見交換会の呼びかけは、全世帯にチラシを配布したり、ポスターをあらゆる場所に貼ったりと、真の意味で、広く市民からの声を集めようとする本気度が伺えました。

他にも、議会開会中は横断幕やのぼり旗を庁舎の外壁に掲示し、議員の質問日程も、全世帯に配布している防災無線ラジオで必ずお知らせしているそうです。知ってもらおうのを待っているのではなくて、工夫が必要だということが分かりました。

2. 視察の成果及び本市議会への反映等

事務事業評価の仕組みを一から整えるのには時間が要しますが、それでも作成に向けて準備に取り掛かかることが委員会できれぽと思いました。最も本市議会へ反映させたいのは、広聴への取組です。本市議会の市議会だよりは「私たちが伝えたいこと」だけが羅列する専門書のように。市民が「聞きたいこと」が載ってい

ないと誰も読みません。考えてみたら、しなくていいことは結構あります。需要がないのにいつまでも続けることに執着してはいけない。常に立ち止まり、市民が何を求めているのかを聞くことから始めたいです。

また、本市議会では意見交換会においても、委員会等での問題提起に関連するテーマ設定もせず、市民が応募してくるのを待っているだけに過ぎません。努力が絶対的に足りないと思いました。議員間で手柄争いをするようなことはやめ、皆で協力して議会を強くしていけるよう、議会改革特別委員以外の方々へもこの視察の成果を伝えていきたいです。

別紙 1

